

シラバス

指定番号 183

商号又は名称：株式会社スプリングス

科目番号・科目名	(1) 職務の理解			
指導目標	① 144時間の研修課程の構成と各研修項目相互の関連性の全体像をイメージ出来るようになる。 ② 視聴覚教材などを使用しながら、必要に応じて職場見学、実習を通して介護職が働く現場や仕事の内容を理解する。 ③ 介護のキャリアパスの概略を理解する。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
① 多様なサービスの理解	3	3	0	<講義内容> ・介護の概念 ・介護保険サービス（居宅、施設）の概要 <演習実施方法> 演習手法：「介護職の仕事の内容」についてグループ単位でディスカッションを行う
② 介護の仕事内容や働く現場の理解	3	3	0	<講義内容> ・働く側からみた「介護の仕事」 ・働く現場における仕事の内容・特徴 ・居宅、施設の実際のサービス提供現場の具体的なイメージ（DVD、職場見学、実習） ・介護の資格とキャリアシステム <実習> ・老人保健施設等の職場見学
(合計時間数)	6	6	0	

使用する機器・備品等	一般財団法人 長寿社会開発センター発行 DVD 教材
------------	----------------------------

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を0にすることはできない。なお、通信時間数については別紙3に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

シラバス

指定番号 183

商号又は名称：株式会社スプリングス

科目番号・科目名	(2) 介護における尊厳の保持・自立支援			
指導目標	① 介護職は利用者の尊厳ある暮らしを支える専門職であること、人権や尊厳を守ることの重要性をその背景となる考え方やしくみ、法律とともに理解する。 ② 具体的な事例をとおして利用者およびその家族の要望にそのまま応えることと、自立支援・介護予防という考え方に基づいたケアを行うことの違い、自立という概念を理解する。 ③ 具体的な事例をとおして利用者の残存機能を効果的に活用しながら自立支援や重度化防止・遅延化に資するケアを理解する。 ④ 利用者の尊厳を著しく傷つける言動とその理由について考えさせ、尊厳という概念を理解する。 ⑤ 虐待を受けている高齢者、障がい者への対応方法についての指導を行い、虐待について理解する。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
③ 人権と尊厳を支える介護	6			〈講義の内容〉 ・人権と尊厳の保持 人権の考え方、基本的人権の尊重、プライバシーの保護、自己決定権 ・QOL QOLの考え方、QOLが求められた社会的背景、QOLと介護 ・ノーマライゼーション ノーマライゼーションの考え方、ノーマライゼーションの理念、ノーマライゼーションと介護 ・虐待防止・身体拘束禁止 高齢者虐待防止法の歩み、虐待の種類、高齢者虐待防止法 ・個人の権利を守る制度の概要 高齢者の人権全般を守るための制度、成年後見制度
④ 自立に向けた介護	4	4		〈講義の内容〉 ・自立支援 自己決定・自己選択、残存能力の活用、こころの自立、個別支援・個別ケア ・介護予防 介護予防の視点、介護予防事業、介護予防施策の推進 〈演習実施方法〉 演習手法：事例をとおして「自己選択・自己決定」についてグループ単位でディスカッションを行う
⑤ 人権啓発に係る基礎知識 (2時間)	2	2		〈講義の内容〉 ・人権啓発に係る基礎知識 人権とは、人権への取り組み、エンパワメントという概念
(合計時間数)	12	12		

使用する機器・備品等	
------------	--

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を0にすることはできない。なお、通信時間数については別紙3に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

シラバス

指定番号 183

商号又は名称： 株式会社スプリングス

科目番号・科目名	(3) 介護の基本			
指導目標	① 介護職に求められる専門性と職業倫理の必要性を理解する。 ② 職務におけるリスクとその対策を理解する。 ③ 緊急時には一人に対応するのではなく多職種との連携することが必要だということを理解する。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
⑥ 介護職の役割、専門性と多職種との連携	1.5	1.5		〈講義内容〉 ・介護環境の特徴の理解 介護保険制度、地域包括ケアシステム ・介護の専門性 介護の理念、自己実現の支援、介護実践の原則、求められる介護福祉士像、介護職が実践できる医療的ケア ・介護に関わる職種 多職種連携の意義と目的、チームケアの必要性 〈演習実施方法〉 演習手法：事例を通して「多職種によるチームの連携」について班に分かれてグループディスカッションを行う。
⑦ 介護職の職業倫理	1.5	1.5		〈講義内容〉 ・職業倫理 倫理の必要性、法律の遵守責務、介護職としての社会的責任、プライバシーの尊重・秘密主義
⑧ 介護における安全の確保とリスクマネジメント	1.5	1.5		〈講義内容〉 ・介護における安全の確保 リスクマネジメントと危機管理の違い、介護事故と労働災害 ・事故予防、安全対策 不安全状態と不安全行動、事故の予防と危険感受性、作業環境管理および健康管理、危険予知訓練、事故が起きてしまったときの対応 ・感染対策 感染症の基礎知識、感染症予防の基礎知識
⑨ 介護職の安全	1.5	1.5		〈講義内容〉 ・介護職の心身の健康管理 介護職のこころの健康管理、職場のストレスモデル、介護職のからだの健康管理、腰痛予防
(合計時間数)	6	6		

使用する機器・備品等	
------------	--

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を0にすることはできない。なお、通信時間数については別紙3に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

シラバス

指定番号 183

商号又は名称：株式会社スプリングス

科目番号・科目名	(4) 介護・福祉サービスの理解と医療の連携			
指導目標	① 介護保険制度や障がい者総合支援制度を担う一員として介護保険制度を理解する。 ② 各専門職の役割や責務について、その概要やポイントを理解する。 ③ 利用者の生活を中心に考えるという視点を共有し、その生活を支援するための介護保険制度や障がい者総合支援制度、その他制度のサービスの位置づけや、代表的なサービスを理解する。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
⑩ 介護保険制度	6	6		〈講義内容〉 ・ 介護保険制度創設の背景及び目的、動向 制度創設の背景、介護保険制度の動向、 ・ しくみの基礎的理解 介護保険制度のしくみ、保険システム、ケアマネジメント、 要介護認定、 ・ 制度を支える財源、組織、団体の機能と役割 介護報酬、介護財源、制度運営にかかる行政組織等、介護サービスの分類と種類、主な介護サービスの内容とサービス事業者・施設、予防給付、保険給付以外の事業
⑪ 医療との連携とリハビリテーション	3	3		〈講義内容〉 ・ 医療との連携とリハビリテーション 介護における医療と福祉の連携、介護職と医行為、リハビリテーションとは、リハビリテーションスタッフの役割
⑫ 障がい者総合支援制度およびその他制度	3	3		〈講義内容〉 ・ 障がい者福祉制度の 障がい者総合支援制度の背景、障がい者福祉の理念 ・ 障がい者総合支援制度のしくみの基礎的理解 障がい福祉サービスの種類と内容、サービス利用のプロセス 給付費の財源および利用者負担の見直し ・ 個人の権利を守る制度の概要 生活保護制度、成年後見制度、日常生活自立支援事業、虐待防止制度、その他の制度
(合計時間数)	12	12		

使用する機器・備品等	
------------	--

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を 0 にすることはできない。なお、通信時間数については別紙 3 に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30 分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

シラバス

指定番号 183

商号又は名称：株式会社スプリングス

科目番号・科目名	(5) 介護におけるコミュニケーション技術			
指導目標	① 利用者の心理や利用者との人間関係を著しく傷つけるのコミュニケーションとその理由について考えさせ、相手の心身機能に合わせた配慮が必要であることを理解する。 ② 共感、受容、傾聴、気づきなど基本的なコミュニケーション上のポイントを理解する。 ③ チームケアにおける専門職間でのコミュニケーションの有力性、重要性を理解するとともに記録等を作成する介護職一人ひとりの理解が必要であるということを理解できる。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
⑬ 介護におけるコミュニケーション	3	3		〈講義内容〉 ・介護におけるコミュニケーションの意義、目的、役割 コミュニケーション過程の理解、言語的・非言語的コミュニケーション、介護におけるコミュニケーションの基本、自己肯定・自己覚知、聞くと聴く ・コミュニケーションの技法、道具を用いたコミュニケーション 質問の技法、介護職として求められる相談の技法、会話を補助する機器、聞くことを助ける機器、読むことを補助する機器 ・利用者、家族とのコミュニケーションの実際 利用者の思いを把握する、家族の思いを把握する、利用者の思いを家族が理解する支援に向けて、利用者と家族の思いが一致する支援に向けて ・利用者の状況、状況に応じたコミュニケーション技術の実際 聴覚・言語障がい者とのコミュニケーション、視覚障がい者とのコミュニケーション、失語症のある人とのコミュニケーション、認知症のある人とのコミュニケーション、知的障がい者とのコミュニケーション、精神障がい者とのコミュニケーション 〈演習実施方法〉 演習手法：「言語的コミュニケーション・非言語的コミュニケーション」を活用して受講生をグループごとに分けコミュニケーションのロールプレイングを行う
⑭ 介護におけるチームのコミュニケーション	3	3		〈講義内容〉 ・記録による情報の共有化 記録の意義・目的、介護に関する記録の種類、記録の書き方と留意点、事故報告書・ヒヤリハット ・報告 意義と目的、報告、連絡、相談の留意点 ・コミュニケーションを促す環境 ケアカンファレンス、事例検討、サービス担当者会議 〈演習実施方法〉 演習手法：事例を通して実際にヒヤリハットの記録を行う
(合計時間数)	6	6		

使用する機器・備品等	
------------	--

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を0にすることはできない。なお、通信時間数については別紙3に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

シラバス

指定番号 183

商号又は名称： 株式会社スプリングス

科目番号・科目名	(6) 老化の理解			
指導目標	① 加齢・老化に伴う心身の変化や疾病について生理的な側面から理解する。 ② 高齢者に多い心身の変化、疾病の症状等について具体例を挙げ、その対応における留意点を説明し、介護において生理的側面を理解する。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
⑮ 老化に伴うところとからだの変化と日常	3	3		<講義の内容> ・ 老年期の発達と老化に伴う心身の変化の特徴 老化のメカニズム、老化の特徴、老化によるところとからだの変化と観察のポイント、 ・ 老化に伴う心身の機能の変化と日常生活への影響 老化による日常生活への影響、身体的な老化と日常
⑯ 高齢者と健康	3	3		<講義の内容> ・ 高齢者の疾病と生活上の留意点 老人病と成人病、代表的な死因 ・ 高齢者に多い病気とその日常生活上の留意点 老化に伴う疾患、廃用症候群、尿・便、関節痛、脱水、歩行障害、睡眠障害、転倒、代表的な生活習慣病、その他の生活習慣病
(合計時間数)	6	6		

使用する機器・備品等	
------------	--

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を0にすることはできない。なお、通信時間数については別紙3に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

シラバス

指定番号 183

商号又は名称：株式会社スプリングス

科目番号・科目名	(7) 認知症の理解			
指導目標	① 認知症の利用者の心理・行動から、介護において認知症の利用者の実際の心理・行動を実感する。 ② 具体的な事例等を通して、認知症の利用者を介護する上での原則を理解する。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
⑰ 認知症を取り巻く状況	1.5	1.5		〈講義内容〉 ・ 認知症の理念 「生活者」としての理解、認知症の人の世界の理解、利用者本人の「感情」や思いの理解
⑱ 医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理	1.5	1.5		〈講義内容〉 ・ 認知症の概念、認知症の原因疾患とその病態、原因疾患別のケアのポイント、健康管理 認知症の概念、認知症に似た状態、認知症の診断・評価スケール、認知症による障害、認知症の原因となる主な疾患、若年性認知症、健康管理
⑲ 認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活	1.5	1.5		〈講義内容〉 ・ 認知症の人の生活障がい、心理・行動の特徴 中核症状、周辺症状、主な BPSD、 ・ 認知症の利用者への対応 認知症の人とのコミュニケーション、受容的な態度でゆっくり関わる、穏やかな声で短くわかりやすく伝える、基本的なケア、環境の力、その人を知る、生活を整える
⑳ 家族への支援	1.5	1.5		〈講義内容〉 ・ 家族への支援 家族の介護負担、家族介護者へのエンパワーメント、家族のレスパイト 〈演習実施方法〉 演習手法：事例を通して「介護職としての家族への支援」を考え、受講生をグループごとに分けコミュニケーションのロールプレイングを行う
(合計時間数)	6	6		

使用する機器・備品等	
------------	--

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を 0 にすることはできない。なお、通信時間数については別紙 3 に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

シラバス

指定番号 183

商号又は名称：株式会社スプリングス

科目番号・科目名	(8) 障がいの理解			
指導目標	① 介護における障がいの概念と ICF の理解 ② 高齢者の介護との違いを念頭におきながら、それぞれの障がいの特性と介護上の留意点を理解する。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
21 障がいの基礎的理解	1.5	1.5		<ul style="list-style-type: none"> 障がいの概念と ICF 障がいの概念、ICF の考え方、ICF の構成要素 障がい者福祉の基本理念 障がい者福祉、ノーマライゼーションの理念
22 障がいの医学的側面、生活障がい、心理・行動の特徴、かかわり支援等の基礎的知識	3	3		<ul style="list-style-type: none"> 身体障がい 視覚障がい、聴覚・平衡機能障がい、音声・言語・咀嚼機能障がい、肢体不自由、内部障がい 知的障がい 知的障害 精神障がい 統合失調症、気分障害（感情障害）、アルコール依存症 高次脳機能障がい、発達障がい、自閉症、アスペルガー症候群、広汎性発達障がい、注意欠陥多動障がい、学習障がい その他の心理の機能障がい
23 家族の心理、かかわり支援の理解	1.5	1.5		<ul style="list-style-type: none"> 家族への支援 家族の心理、障がいの理解、障がい受容
(合計時間数)	6	6		

使用する機器・備品等	
------------	--

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
 ※ 各項目について、通学時間数を 0 にすることはできない。なお、通信時間数については別紙 3 に定める時間以内とする。
 ※ 時間配分の下限は、30 分単位とする。
 ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
 ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

シラバス

指定番号 183

商号又は名称：株式会社スプリングス

科目番号・科目名	(9) こころとからだのしくみと生活支援技術			
指導目標	① 介護実践に必要なこころとからだのしくみの基礎的な知識を理解する。 ② 模型や写真等を使って具体的な身体の各部の名称や機能などを理解する。 ③ サービスの提供例などを活用し、利用者にとっての生活の充足を提供し、かつ不満足を感じさせない技術が必要だと理解する。 ④ 「死」に向かう生の充実と尊厳あるある死について考えることが出来るようになる。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
24 介護の基本的な考え方	6	6		〈講義内容〉 ・理論と法的根拠に基づく介護 介護に関する専門的な知識、技術の必要性、何を目的に介護を行うのか、法律上の規定や考え方、医療サービスと介護サービスに求められる役割の違い、
25 介護に関するこころのしくみの基礎的理解	3	3		〈講義内容〉 ・学習と記憶の基礎知識 記憶の働き、記憶のメカニズム、記憶と加齢、記憶と学習 ・感情と意欲の基礎知識 感情の定義、感情の反応、感情の発生、感情と加齢、意欲と動機づけ、マズローの欲求階層説 ・自己概念と生きがい さまざまな老年期、自己概念、老年期と生きがい、老年期の人間関係と幸福感 老化や障がいを受け入れる適応行動とその阻害要因 老化過程への適応、障がいへの心理的反応、障がい受容と価値の転換、障がいの自己受容と社会受容、支援に向けて
26 介護に関するからだのしくみの基礎的理解	3	3		〈講義内容〉 ・人体の各部の名称と以後気に関する基礎知識 人体の構造と機能、バイタルサイン、 ・骨・関節・筋に関する基礎知識 からだの運動、骨格と関節、筋肉の役割、神経との連動、ボディメカニクス、 ・中枢神経と末梢神経に関する基礎知識 神経系のしくみ、中枢神経系、末梢神経系、 ・自律神経と内部器官に関する基礎知識 自律神経、自律神経と人体の内部器官の各機能、 ・こころとからだを一体的にとらえる 高齢者のけんこうとは、こころのしくみ、からだのしくみ、利用者を一体的にとらえる、
27 生活と家事	6	6		〈講義内容〉 ・家事と生活の理解 生活支援としての家事サービス、高齢者に対する生活支援の意味するところ、生活の大切な要素、残された能力を活用し生活能力を高める介護の知識・技術、認知症高齢者への関わり、普通に暮らすということ、 ・家事援助に関する基礎的知識と生活支援 家事援助の方法、買い物支援のための基礎知識、調理支援のための基礎知識、洗濯・衛生管理支援のための基礎知識、清掃支援のための基礎知識、

28 快適な住居環境整備と介護	6	6		<p>〈講義内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・快適な住居環境に関する基礎知識 快適な住居環境づくり、住居の安全と事故防止、 ・高齢者、障がい者特有の住居環境整備と福祉用具に関する留意点と支援方法 高齢者・障がい者特有の住居環境整備、目的に合わせた適切な住宅改修や福祉用具の選択と使用、 <p>〈演習実施方法〉 演習手法：グループに分かれ事例を通してロールプレイングを行う</p>
29 整容に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	6	6		<p>〈講義内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・整容に関する基礎的理解 身支度の意義と目的、身支度の介護の基本、衣服の役割、身体状況にあわせた衣服の選択、衣服の着脱の支援の基本と留意点 ・整容の支援技術 整容行動とは、洗面の意義・効果、整髪、爪の手入れ、髭剃り、口腔ケア、 <p>〈演習実施方法〉 演習手法：グループに分かれ事例を通してロールプレイングを行う</p>
⑦ 移動・移乗に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	6	6		<p>〈講義内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・移動、移乗に関する基礎知識 移動の意義、廃用症候群（生活不活発病）とは、利用者の身体状況に応じた介護技術、ボディメカニクスを知る、安全・安楽な移動・移乗のために、 ・さまざまな移動、移乗に関する用具とその活用方法 安楽に関する道具・用具の種類、移動・移乗の補助具、 ・利用者、介助者にとって負担の少ない移動、移乗を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法、移動と社会参加の留意点と支援 安楽な体位の保持のための介助手順、体位変換、車いすの介助 <p>〈演習実施方法〉 演習手法：グループに分かれ事例を通してロールプレイングを行う</p>
⑧ 食事に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	6	6		<p>〈講義内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食事に関する基礎知識 食事の意義と目的、食事に関連したところとからだのしくみ、栄養素と食品の関係、献立の立て方、食品の保持と安全性、調理の基本 ・食事環境の整備、食事に関連した用具、食器の活用方法と食事形態とからだのしくみ 食事環境の整備、食器・食具の工夫、食事介助の技法、 ・楽しい食事を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法 高齢者の食事、疾患と食事、 ・食事と社会参加の留意点と支援 食事と社会参加、 <p>〈演習実施方法〉 演習手法：グループに分かれ事例を通してロールプレイングを行う</p>
⑨ 入浴、清潔保持に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	6	6		<p>〈講義内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入浴、清潔保持に関連した基礎知識 入浴・清潔を保つことの意義と目的、入浴・清潔を保つことに関わるからだのしくみ、入浴介助のポイント、部分浴、清拭、

			<ul style="list-style-type: none"> さまざまな入浴用具と、整容用具の活用方法 入浴補助用具、 楽しい入浴を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法 こころの機能の低下が入浴・清潔に及ぼす影響、からだの機能の低下が入浴・清潔に及ぼす影響、 <p>〈演習実施方法〉 演習手法：グループに分かれ事例を通してロールプレイングを行う</p>
⑩ 排泄に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	6	6	<p>〈講義内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 排泄に関する基礎知識 排泄とは、排泄が及ぼす3つの側面、オムツ着用のマイナス面、排泄介助の基本視点は尊厳の保持と自立支援 さまざまな排泄環境整備と排泄用具の活用方法 排泄環境整備、排泄用具の活用方法、 爽快な排泄を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法 快適な排泄を阻害するところの要因、爽快な排泄を阻害するところとからだの要因、排泄介助の実際、 <p>〈演習実施方法〉 演習手法：グループに分かれ事例を通してロールプレイングを行う</p>
⑪ 睡眠に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	6	6	<p>〈講義内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 睡眠に関する基礎知識 日常生活の生活パターン、睡眠とは、睡眠障害、睡眠障害時の介助と援助方法、入眠儀式 さまざまな睡眠環境と用具の活用方法 寝室の環境、寝具・就寝時の衣類、福祉用具の活用、 快い睡眠を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法 快い睡眠を阻害するところとからだの要因、就寝時の支援、 <p>〈演習実施方法〉 演習手法：グループに分かれ事例を通してロールプレイングを行う</p>
⑫ 死にゆく人に関連したところとからだのしくみと終末期介護	6	6	<p>〈講義内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 終末期に関する基礎知識とところとからだのしくみ 死生観を育て利用者の死を受け止める、終末期ケアとは、高齢者が死にいたるプロセス、利用者ニーズに寄り添う看取りの要件 「死」に向き合うこころの理解 死に向き合う高齢者の心理、看取りにおける介護職員の基本的態度、 苦痛の少ない死への支援 苦痛を和らげる、緩和ケアのための環境づくり、多職種間の情報共有の必要性、家族の苦痛緩和、遺族へのグリーフケア、看取りにおける倫理観、 <p>〈演習実施方法〉 演習手法：グループに分かれ事例を通してグループワークを行う</p>
⑬ 介護過程の基礎的理解	6	6	<p>〈講義内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 介護過程の目的、意義、展開 介護過程の基本的理解、介護過程の必要性、 介護過程とチームアプローチ <p>〈演習実施方法〉 演習手法：グループに分かれ事例を通してロールプレイングを行う</p>

⑭ 総合生活支援技術演習	6	6	<p>〈講義内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事例による展開 ある状態の利用者を想定し一連の生活支援を提供する流れの理解と技術の習得 ・利用者の心身の状況にあわせた介護を提供する視点の習得を目指す 上記においては「事例の提示を行い、こころとからだの力が発揮出来ない要因を分析し、適切な支援の検討し、実際に支援技術の演習を行い、課題をまとめる」 <p>〈演習実施方法〉 演習手法：グループに分かれ事例を通してロールプレイングを行う</p>
(合計時間数)	78	78	

使用する機器・備品等	<ul style="list-style-type: none"> ・介護用ベッド ・車椅子 ・ポータブルトイレ ・浴槽 ・杖、歩行器等
------------	--

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を0にすることはできない。なお、通信時間数については別紙3に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

シラバス

指定番号 183

商号又は名称：株式会社スプリングス

科目番号・科目名	(10) 振り返り			
指導目標	<p>①在宅、施設のいずれの場合であっても、“利用者の生活の拠点に共に居る”という意識を持って、介護を行えるようになる。</p> <p>②利用者の生活を支援する根拠に基づく介護の要点について再確認する。</p> <p>介護過程を踏まえた基礎的な介護業務を体験することで、介護の目的・機能、利用者や家族とのかかわり方、コミュニケーションのあり方について体験的に理解を深めるとともに、介護の基本的な理念と介護過程の考え方が、実践の中でどのように活かされているかを学ぶ。</p> <p>・在宅や施設等における利用者の生活を知ること、利用者・家族についての理解を深める。</p>			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
30 振り返り	3	3	0	<p><講義の内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修を通して学んだこと ・今後継続して学ぶこと ・根拠に基づく介護についての要点 ・利用者の状態像に応じた介護と介護過程、身体、心理、社会面を総合的に理解するための知識の重要性、チームアプローチの重要性
31 修業への備えと研修終了後における研修修了後における事例	3	3	0	<p><講義の内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・継続的に学ぶべきこと ・研修終了後における継続的な研修について、具体的にイメージできるような事業所等における事例 ・介護にあたっては、利用者の個別性や人間関係を理解するための着眼点を理解できるように留意する。 ・在宅の生活、利用者の日常生活の多様性、および介護の工夫の現状と自立に向けた支援の考え方について理解できるように留意する。 ・また、介護目標を踏まえて、自立に向けた介護の考え方やプロセスを理解できるように指導する。
(合計時間数)	6	6	0	

使用する機器・備品等	
------------	--

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を0にすることはできない。なお、通信時間数については別紙3に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。